スイスポートジャパン片岡社長　グラハン需要増に対応

訪日客・就航増加も背景に

片岡康弘社長

スイスポートジャパン（本社＝大阪府泉佐野市）の片岡康弘社長がこのほど本紙取材に応じ、訪日旅行者の増加、就航便数の増加への対応において、グランドハンドリング業務の重要性に言及した。片岡社長は「全国的に事業展開していることがスイスポートジャパンの強みでもある。グランドハンドリング需要の増加に柔軟に対応することで、訪日旅行客増加という政策にも貢献できるのではないか」と語った。

片岡社長の発言要旨は次のとおり。

▽現在の組織は、本社を大阪府泉佐野市に置き、旅客業務を行う関西国際空港支店、中部国際空港支店、成田国際空港支店、羽田空港支店に加え、カーゴサービス部（関西カーゴサービス課、成田カーゴサービス課）、整備部という体制だ。昨年 4 月に貨物と旅客の組織を明確に分けた。カーゴサービス部の陣容は、関西が約 20 人、成田は約 30 人で、上屋での貨物ハンドリングを担っている。関空におけるフェデックスのハンドリングに関しては、組織上は関西国際空港支店の下にフェデックス担当課が配置されており、約 100 人が業務にあたっている。

▽昨今の新規受託案件としては、今夏に新たに成田空港で航空会社 2 社のグランドハンドリング、貨物ハンドリングを受託したことをはじめ、各空港で新規業務を受託している。

▽訪日外国人旅行者の増加も背景に、新千歳空港や福岡空港、那覇空港など日本各地の主要空港で機能拡充の動きがみられている。こうした空港でグランドハンドリング業務のニーズも拡大するとみられ、すでに国内 4 空港で事業展開するスイスポートジャパンが貢献できる機会もあるのではないか、と考えている。

▽スイスポートジャパンは、世界最大規模のグランドハンドリング会社であるスイスポートインターナショナルが、総合商社の丸紅と組み、国内で事業展開する日本現地法人だ。グループとして世界的に事業展開しており、各国現地法人との連携で、ハンドリングのノウハウを蓄積していること、世界水準のサービスを提供していることが強みだ。こうしたノウハウを日本で生かす、あるいは日本のノウハウを世界で生かすことも可能だ。スタッフにとっても海外で働くチャンス、世界をフィールドに仕事をしているという意識付けにつながるのではないだろうか。

▽成田空港や羽田空港でも発着容量拡大について検討が進められている。そのほか、各地の空港でもローコストキャリア（LCC）を含めて乗り入れが増加するだろう。就航便数の増加に対応するグランドハンドリング業務が必要になり、これは日本にとって今後さらに大きな課題になる。スイスポートジャパンとして、こうしたグランドハンドリング需要の増加に柔軟に対応することで、訪日旅行客増加という政策に貢献できる、と考えている。

▽われわれ新規参入のグランドハンドリング事業者にとっても活用しやすいような制度・運用面での柔軟化も求めたい。同時に、例えば空港現場での GSE をはじめとする機材の運用効率化についても、関係者と連携した取り組みができないか、と考えている。